

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100307		
法人名	医療法人 智仁会		
事業所名	グループホーム吉原		
所在地	〒840-0013 佐賀市北川副町大字新郷654-1		
自己評価作成日	令和2年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年1月21日	外部評価確定日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは高齢者住宅や通所リハビリと併設の事業所です。また、法人の医療機関が隣接し、週1回の訪問診療があり、健康面においても安心して生活が送れる環境となっています。施設の周囲は散歩が出来るように整備されており、外気に触れ四季の移り変わりを肌で感じてもらえるように毎日散歩を行っています。施設の前は中学生の通学路で、挨拶を交わしたり、隣の保育園とも交流があり園児に触れ大変喜ばれています。入居者さんは高齢の方が多く体力維持と認知症の進行予防の為、毎日の体操やレクリエーションを午前と午後に行っています。今年は新型コロナの影響で、地域の春祭りや夏祭りへの参加や、佐賀城下ひな祭りやバルーンミュージアム見学を予定していましたが外出支援ができない状況でした。その為、施設内でのイベントの回数を増やし、少しでも入居者さんに楽しみのある生活を送って頂けるよう取り組みました。また、高齢者住宅の方と合同で敬老会、クリスマス会を行いました。「夢叶えプロジェクト」では「マロンケーキが食べたい、ラーメンが食べたい」との要望があり、おやつレクリエーションとして入居者さんと作りました。久しぶりの味に大満足のご様子でした。今後も理念である「その人らしい人生の継続の支援」を心掛けたケアに取り組んでいきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

法人理事長は「地域医療に取り組み、地域と共に歩みたい」の信念を持ち、事業所も地域との交流関係が深まっている。事業所の理念である「利用者の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援し、その人の一瞬一瞬に寄り添っていきます」を実現するために、利用者主体の質の高い支援を追い求めている。管理者を中心とした「チームワーク」による丁寧で優しい支援は、利用者や家族に安心感をもたらし、信頼を得ている。家族や来訪者に笑顔で接し、節度ある言葉遣いは、家族に訪問しやすさ、相談しやすい雰囲気を感じさせている。一日の暮らしは、決められた枠にとらわれず、一人ひとりの生活時間を把握し、思い思いの時間を過ごしてもらったり、趣味や興味がある活動を取り入れて暮らしに意欲を持ってもらう工夫をしている。入浴や食事、外出の希望等にも柔軟に対応し、利用者の思いに応えている。現在は、新型コロナウイルス感染防止のため、利用者の希望を取り入れた外出支援が思うように実現していないが、短時間でも外気に触れる散歩や外気浴をしたり、ホーム内での暮らしに変化をもたらす行事を実践することで、毎日の暮らしに変化をつけ、利用者が閉塞感を抱かないために工夫した支援を行っている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、人格を尊重した生活環境が構築できるように、ホール内に理念を掲げている。また、「いくつになっても夢ある暮らしを」を念頭に入れ、できる限り入居者様の声を傾聴するよう努めている。	母体の法人は「地域医療」が理念である。その理念を具現化するために事業所独自の理念を創っている。理念を基に10項目の支援方針を決め、職員は名札と共に何時も身につけて、常に理念を意識しながら支援に努めている。また、管理者はおりにふれて理念の具体的な姿について、職員と話し合う機会を持ち、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩し地域の方々と接したり、併設している通所の方々と接している。コロナの影響で今年は地域のイベントに参加できない状況である。状況に合わせてイベントに参加していきたいと考えている。	これまでに地域とは「なじみの関係」が築かれている。地域の祭りやしめ縄づくり、花壇の植栽、その他地域の行事には、出来る限り参加している。散歩の際、近所の方と挨拶を交わしたり、近くにある保育園や中学校の子どもたちと手を振ったりするなど親しみのある関係でもある。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、思うような交流ができていないが、地域交流は常に意識している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、事業所の状況などを報告。中学校や高校からのボランティアや職場体験をできるだけ受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長さんや民生委員さんより地区で行われる行事のお知らせや地域のお知らせ等から、事業所で参加できるような行事を選定している。季節にあった取り組みや外出支援で行きやすい場所など提案してもらったこともある。	年間に6回、三密を避ける工夫をしながら定期的に開かれている。構成メンバーも15名と多く、自治会長、民生委員、女性の会、包括支援センター、家族代表が含まれている。会議には利用者の日常の様子が具体的に見えるように資料の工夫をしている。事業所からの報告だけでなく、地域の情報、運営に関する質問や意見が出され、有意義な会議になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った時には佐賀中部広域連合へ連絡するようにしている。運営推進会議に地域包括センターの方に参加してもらって意見をもらっている。	行政の担当者とは運営推進会議の時だけでなく管理者や計画担当者が電話や直接出かけて、連絡や相談、情報交換をしている。事業所の実情な課題など具体的に共有ができ、運営にも活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的に行い、職員の意識を高めている。身体拘束を行っている方はおられません。玄関の施錠はできるだけ行わず、夜間のみ施錠している。3ヶ月に1回主治医も参加し会議を開催している。	身体拘束の事例は無い。年2回の身体抑制に関する研修会をはじめとする各種研修会を通じて、身体拘束の弊害について十分に認識しており、身体拘束の無い支援を実践している。言葉等による心の拘束も無い支援でもある。玄関の施錠も無く、利用者に閉塞感を感じさせないように留意している。シルエットセンサーの使用については家族の理解と了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し防止に努めている。事業所内でのマニュアルを作成している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己学習や研修参加をし、職員間で情報共有し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ゆっくりと時間をとり不安や疑問を聴取するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日々声掛けし話しやすい雰囲気づくりに努めている。 家族へは来所時に必ず声を掛け、気になることや困ったことが無いかな尋ねるようにしている。	家族の面会も多く、職員は笑顔で声をかけ、日常の様子を伝えたり、家族の要望や意見を聴いている。家族の声は「申し送りノート」にも細かく記録し、サービス向上委員会でも利用者や家族の声を拾うようにしている。利用者の笑顔が増えた、野菜や花の世話をするようになって生き生きした姿が見られるようになってきた、ホール内に落ち着いたBGMを流す等は、支援に反映されている一例である。毎月のグループホーム便りには、写真をふんだんに取り入れ、利用者の暮らしの様子がよくわかり、事業所と家族の絆を深める一助にもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を月1回行い、スタッフの意見が聞けるようにしている。 また、会議以外でもスタッフの意見や提案を聞いている。	管理者は定例の会議だけでなく、課題が見つければその都度話し合う機会を設けている。スタッフが管理者の意見を求めることも多く、ケアの統一が図られている。定例の会議には上司も出席し、常に支援の質を高める努力している。代表者も毎日顔を出し、職員や利用者に向けて声をかけている。「今が一番チームワークがとれている」との職員の声もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、条件の整備をおこなっている。年2回の個人面談を行い、意見を聞いている。労働時間においては、希望の休みを聞いている。急な休みにも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会を行い、職員の専門的な知識の習得、意欲の向上を図れるよう努めている。また、外部の研修等にも希望者はできるだけ参加できる体制を取り、その後、事業所内で他職員に伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修への参加等での同業者との繋がりを大切にし、知り得た情報の共有を図り、参考になる事を取り入れたりサービスの質の向上ができるよう努めている。計画担当が他の施設にも出入りしており、良いところを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まられた際には、密な連絡調整を図り、契約等での面談時には本人、家族の方の思いを汲み取れるよう配慮し、アセスメントでの情報収集を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ、顔を合わせて面談する機会を作り、「顔の見える関係作り」を心掛け、信頼関係の構築に力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や聞き取りを密に行い、本人、ご家族の方の希望や必要な支援を明確にし、関連する専門スタッフとの連携を図りながらケアに努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中の共同生活であるという事を念頭に置き、利用者の方の持つてある力を最大限に発揮し、意欲を引き出せるような働きかけを行いながら、必要な部分のケアが出来るよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは、利用者の方の変化や近況情報の提供が細かくできるよう連絡体制を整えている。また、面会に来られた際は、関わりを増やし、利用者、家族の方が一緒に快適に過ごして頂けるような関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、今までの生活での繋がりを大切にし、馴染みの美容院やかかりつけの病院、家族や親戚との集まり等に参加できるよう努めている。	ホームでの暮らしが、これまでの生活の延長線上にある事を意識しながらの支援である。遠方から10人程の家族が訪れて記念写真を撮ったり、孫の書き初め作品を貼っている方もある。家族の協力で月命日に一時帰宅をしたり、馴染みの美容室を利用する利用者もある。家族の協力を得ながら、生活環境継続の支援が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者の方の特性を把握し、その方に合った支援、交流が図れるよう配慮し、それぞれが自分を持っている力を発揮しながら皆さんが安心して、居心地の良い場所となるよう心掛けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、「いつでも何でもご相談下さい」とお伝えしている。また、系列の病院やサービスを利用されている時は、連携を図りながら、声掛けや関わりを持つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的にはご本人からの聞き取りにて意向を把握しているが、難しい場合は近い存在のご家族の方からの情報も得ながらそれぞれの思いを把握できるようにしている。	利用者の信頼を得て居室でゆっくり話を聴いたり、ソファで隣りに寄り添いながら耳を傾けて思いを汲み取っている。言葉は通じなくとも、利用者の表情やちょっとした行動の変化からその心情や思いに心を寄せることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族とのアセスメント時に、今までの生活歴や趣味、家族構成、どのような立場で、どのような役割を持たれていたか等の情報を細かく捉え、個々の利用者の方がどのような生活を望んであるのか、見いだせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、ご家族の方との面談で知り得た情報、アセスメント情報を基に個々の利用者の方の趣味、楽しみ、興味のあることを見い出す、引き出す事が出来、生活の中で実行出来るよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の方との面談、アセスメントで知り得た情報を基に課題を明確にし、必要なサービスを見出し、サービス計画書を作成、必要なサービス内容を職員全員が周知しケアできるよう努めている。また、本人、家族の方からの情報のみでなく、主治医や関係スタッフから知り得た情報も計画書に反映出来るよう配慮している。	利用者主体の実現可能なサービス内容で、関係者全員が関わり合っの介護計画である。利用者や家族の暮らしに対する要望を具体的に反映した計画でもある。担当者会議には家族も出席しての計画書作成である。利用者の状況に合わせての評価と計画の見直しもきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の内容を全職員がきちんと把握し、情報の共有を行いながら、計画書に沿った必要なケアの提供が出来るよう努めている。また、本人、家族の方と定期的に面談し見直しの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の方の意向を中心に、職員間での情報交換、情報の共有を確実に行う事でその時々状況に合った課題を抽出し適切なサービスの提供が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限りで、地域の行事等への参加や交流の場を作り地域との繋がりを保ち、豊かで楽しみのある生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を確認し、ご希望があれば当医療機関へかかりつけ医の移行が出来ることを説明している。週に1回の訪問診療により定期的な健康管理と、必要時の報告、相談等の連絡体制をとっている。	利用者や家族が希望する病院での受診である。協力医療機関が隣接しており、ドクターによる毎週1回の訪問診療があり、適切な健康管理は家族にも安心感をもっている。隣接する病院での受診はスタッフが同行支援している。専門科受診には家族の協力を得ている。歯科医、歯科衛生士による定期的な訪問診療や口腔ケアの支援もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態をきちんと把握し、変化がある場合は看護師に報告、必要な指示をもらい迅速かつ的確に対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関、地域連携室等に情報提供を行い、電話連絡での経過の把握、家族との連携を図り関係性の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方を、入居時に本人、家族の方に説明している。また、医療機関を交え、今後の方針や支援の在り方をその都度、状況に応じ検討している。	重度化や終末期に関する指針を基にして、契約時に利用者や家族と納得のいく話し合いが行われ、同意を得ている。重度化の際は状態の状況に応じてそのつど家族の意向を確認し、主治医や家族と連携を保ちながらの支援である。管理者は、終末期の支援について介護と医療のはざままで考慮を重ねている。	今後、最期を事業所で迎えたいとの意向を抱える家族が増えることも考えられる。現在、重度化や終末期のあり方を医療機関を交えての検討段階でもあり、その検討の積み重ねを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事後発生時は、緊急時の対応マニュアルに沿って緊急連絡網を活用し医師や看護師への迅速な連絡や指示を受けられるよう体制作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害時等を想定し防災訓練を年に2回実施している(法人と一緒に) また、定期的に防災マニュアルの見直しを行っている。	消防署も立ち会い、利用者も参加して、年に2回避難訓練を実施している。自然災害が想定される時は早めに避難指示を出し、昨年台風時には本館2階に避難している。避難に備えて、ヘルメット、点灯時間の長い懐中電灯、重要書類の搬出袋を準備している。自然災害時には法人施設が町内の避難場所になっており、地域との協力体制もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者の方の「その人らしさ」を尊重し、利用者の方中心の関わりを心掛け、尊厳を持った声掛け、対応ができるよう努めている。	利用者の尊厳や願いを尊重することが運営理念の基盤であり、一人ひとりのその人らしい尊厳のある姿を尊重している。これまでの人生で頑張ってきたこと、誇りや自慢、悲しみ等心の中に残っていることを大切にしたい支援である。プライバシーを損ねないように細かい場面まで配慮している。個人情報もきちんと保護されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者の方の思いにしっかりと耳を傾け、思いをうまく伝える事ができない方には、職員が思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」を大切にし、お一人お一人のペースを尊重し可能な限り、希望に添えるような対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からのお気に入りの服を持ってきて頂いたり、顔のお手入れ、化粧、ヘアカット等、個々の利用者の方の個性や興味、関心を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操を行い、また、共同生活の場として献立の紹介や、テーブル拭きや茶碗拭き等、出来る能力を活かした支援を心掛けている。	献立は栄養課の管理栄養士が作成しており、栄養課と連携がとれている。副食は法人の厨房で調理され、主食のごはんはホームの台所で炊いている。一品毎にラップをして、利用者にお出しし、自分のペースで食事をいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の把握、それぞれに合った食事形態での提供、スプーンの種類や自助具の使用等検討し個別的な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいを徹底し、口腔内の清潔保持に努めている。定期的な訪問歯科診療にて口腔内のチェックをもらい、必要な指示やケアを受け、日々の支援に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて管理し、個々の利用者の方の排泄パターンを把握できるよう努めている。また、できるだけ排泄はトイレでという意識を持ち、個々の持っている機能を最大限に利用した支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握されており、その方にあつた支援が行われている。極力おむつは使用しないようにし、毎日、トイレに行くことを原則にしている。夜間だけ、安眠の手助けになるようにおむつを使用している方もいる。家族の了承を得て、シルエットセンサーでの見守りもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での管理、把握を行い、必要時は排泄コントロールをしている。また、日々の生活の中で体操や外への散歩等、体を動かす機会を作るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週3回の入浴を実施している。個々の希望を取り入れ、ニーズに合った柔軟な対応ができるよう配慮している。	家族に入浴習慣を訊ね、出来るだけこれまでの入浴習慣に合った支援を心がけている。お湯の準備は毎日出来ており、入浴日も週3回以上になったり、2回になることもある。入浴時間や時間帯に特に制限は無い。入浴が不自由な方には機械浴での支援である。脱衣場や浴室の室温は室内温度と同じで、冬場は特にヒートショックに配慮している。柚子湯や菖蒲湯の日もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今までの生活習慣や、その時々体調やリズム、希望を最大限に取り入れ、個別的な対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方の内服状況を職員がしっかりと把握し、情報の共有ができ、変更時等もきちんと確認できるような体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の方の生活歴や性格を考慮しそれぞれの特性を活かした役割設定を行い、楽しみながら、意欲を引き出せるような関わりが出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、個々の外出等の支援は個別的な対応ができるよう努めている。また、家族との繋がりを大切にし、一緒に過ごし楽しめる場を提供出来るよう配慮している。	短時間、個々に、ホームから外に出て外気浴をしたり、季節の移り変わりを感じてもらっている。コロナウイルス拡大防止のための制限以前は毎日の屋外散歩を日課にしていたり、病院の売店で買い物をしたり、自動販売機を利用する利用者もいた。希望の場所へのドライブもあったが、今は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望時は家族の許可を得て、手持ちで管理されることもある。また、買い物希望ある時は職員と一緒に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方には「いつでも気軽にお電話下さい」と伝えている。また、利用者の方からの希望時や、遠方のご家族からの贈り物等が届いた時は、こちらから電話を入れ、直接話ししてもらえるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や照明等、利用者の方が落ち着き、ゆったりと過ごしてもらおう事ができるように配慮した配置にしている。また、状況の変化に応じて、その都度再検討している。	共有空間は明るく静かで、加湿器や空気清浄機も置かれ、快適な生活環境である。室温や換気にも配慮が行き届いている。ソファやテーブルの配置も密にならないように工夫し、思い思いに過ごせる環境を提供している。トイレ、浴室、リビングなど清潔な環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の特性を考慮し、また、気の合う方同士を近くにしたりと可能な範囲で皆さんが楽しく居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方のそれぞれの居室には、今までの馴染みの物や写真、使い慣れた物を持ってきて頂き、落ち着ける空間作りを心掛けている。	家族の協力を得ながら、すっきりとした居室環境になっている。使い慣れた物や馴染みに品などの持ち込みには特に制限は無い。毛布、枕、テレビ、鏡台や手鏡、趣味の編み物道具、大正琴、その他その方を思わせる品で居室環境が整えられており、落ち着いてゆっくりと過ごせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能面や行動の把握を行い、残存機能を発揮できるような支援が出来るよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない